第２回福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　議事録

日　　時: 2016年 11月29日（火）13:30-16:00
場　　所: 福井市役所8階　第8会議室(A)(B)
出 席 者: 策定委員会　　石丸委員、今村委員、小原委員、古石委員、友廣委員
中嶋委員、中西委員、野坂委員、野嶋委員、長谷川委員
山崎委員
資　料 : 議事次第、資料Ⅰ 前回策定委員会における質疑事項、資料Ⅱ 現況調査、
資料Ⅲ 施設の目指す方向性（案）、市民ワークショップかわら版

事務局　■次第１　開会
■次第２　前回の協議事項の整理
資料Ⅰ　前回策定委員会における質疑事項　の説明
① 愛知県芸術文化センターの改修について
② 施設利用申請時の重複およびお断りの状況
【参考】施設利用の申し込み方法について
③ 施設の目指す方向性と実現化の事例
【参考】可児市文化創造センター ala
北上市文化交流センター さくらホール
④ 福祉会館のスペースを活用した駐車場台数試算
⑤ 連合音楽会が文化会館で開かれる理由
⑥ 著名アーティストがフェニックス・プラザで公演する理由
【参考】市民が利用する意向について－利用料金の減免について
⑦ 近年の多機能ホールの性能

Ａ委員　現在の文化会館を建設する際、美術館や博物館での活動ができない華道などの展示ができるような機能を持たせられるよう、寄付金を集めた。私も初めの頃は２階の会議室を使って講座を持っていたが、なぜその機能がなくなってしまったのか。美術館で発表ができない文化伝統芸能の類いがある。今度、文化会館を整備するにあたり、改修が難しく新設するということであれば、大ホールと中ホールを作り、大ホールは固定席であっても、中ホールは多目的性を十分発揮できるようにして欲しい。

また、現在の文化会館は舞台の奥行きが全然ない。フェニックス・プラザも舞台の奥行きがないため、臨時の舞台を作らなければならない中途半端な施設。改修するにしてもそういった面を解決しなければいけない。トイレとか、乳児室と育児室といった諸室をつくるスペースの余裕がないということが分かった。少なくとも北陸、中部でオンリーワンだろうという施設をぜひ作っていただきたい。

事務局　本日の資料Ⅰの③に可児市と北上市の例があったが、こういったイメージは持ちつつある。なので、大ホールにあたる部分はいわゆる専門ホールに負けないもの、それ以外の付帯施設では、多機能を持ってくるというような考え方、もしくは北上市のように周りの共有スペースを多機能に使えるようにするなどの観点が必要は考えている。

Ｂ委員　先々週、新潟市民芸術文化会館へ行ってきた。他の施設と何が違うかというと、エントランスホールが開放型で実に広く、いろいろなジャンルの団体が絶えずそこに集まっている。若者が集まるための簡単なカフェや催物後に簡単な打ち上げができるような施設を二つも三つも持っ

ている。その他、大、中、小の専門的機能を有した三つのホール、能楽堂もある。このような施設があることで、少子化で人口も減り若者がどんどん流出する中で、少しでもそれを食い止められるのではないか。こういったホワイエ部分を十分に作れば、お花、習字、いろいろな展示に関しては一遍に解決するのではないか。
また、郊外型（郊外への建設）はやめてほしいと思う。

委員長　多面的な機能にするべき。エデュケーショナルプログラムを含めた社会包摂的な機能性や、ソーシャル・エンゲージド・シアターという、いわゆる一般の人と社会とが関わっていく機能を持ったものに。
　また、町づくりと一体となった施設が望ましい。つまり若者から高齢者まで、いろんな方が集えるようなサードプレイス。そういうたまり場のような機能を持たせるべきだというのは、恐らく世界的な流れであり、欧米でも地域の劇場はそういった方向となっている。

事務局　■次第３　協議事項
資料Ⅱ　現況調査　の説明
① 福井市および周辺文化施設の現状
・嶺北エリアの文化ホール分布状況
・嶺北エリアの文化ホールの建設時期および規模
・福井市内および周辺主要ホールの比較
　－①立地・敷地・建物規模
　－②施設の概要と特徴
　－③減免制度と利用料金
　－④利用ジャンル
　－⑤利用団体
　－⑥ホール利用状況
・福井市内の中小規模ホールの現状
・福井市内の中小規模ホールの稼動率及び利用ジャンル
・市内文化ホールの現状　主要ホール比較のまとめ
② 市民利用の実態とニーズ
・文化団体アンケートより　市文化団体の活用状況
・市民アンケートより　市民の活動状況
・市民ワークショップより　市民の活動状況
③ 福井市のエンターテイメント市場
・福井県･福井市のエンターテインメント市場評価
・興行の観点から見た文化会館の主な問題点･課題
・興行利用する場合の備えるべき主な要件
④ コンベンション※・MICE※の可能性
・福井市観光振興計画（平成28～32年度）での位置づけ
・福井市におけるMICEの受入状況
・文化会館のコンベンション利用状況（第１回資料再掲）
・福井市内の他の主な受け入れ施設
・MICE関係者ヒアリングより
・福井市のMICEに関する取り組み

Ａ委員　使いたい時期に使えないという意見を聞くことがある。
　また、上演できない理由として、舞台奥行がなく十分にやりにくいという点もある。どうしても使わないといけない場合は使うが、そのときは他の団体の利用も集中してしまう。
　今回の調査結果にはそういった季節的な違いは出ておらず、全体の利

用状況の統計が出ている。新しくなってもそういうことが起こると思うが、現状はもっと厳しい。

Ｂ委員　　Ａ委員は、例えば各団体が発表する時期というのは大体、秋口に集中している。その秋口のときに会場がないということを言っているのだろうと思う。
　ただ、もう少しそういった使い勝手のいい所があと２、３あれば、満遍なく皆が使いこなせるのではないか。

Ｃ委員　　私自身はどちらかというと観に行く側だが、今の文化会館はホールが一つしかないため、もっと小さいスペースでいいという団体には使いづらい。値段のこともある。大きな所でやろうとするのでどうしても重なる。また、平日は難しく、土日に取ろうとなると重なってしまいなかなか取れないということもあるのではないか。

Ｄ委員　　文化会館は市の中央にあるため、中学校の生徒が集まりやすく、立地条件的には良いかと思っている。やはり減免が利くということも大きな一つの要因だとは思う。

事務局　　資料Ⅲ　施設の目指す方向性（案）　の説明
① 第１回委員会　まとめ
・文化会館の現状　課題のまとめ（第１回資料再掲）
・第１回策定委員会のご意見より
・福井市上位計画より
② 第２回委員会資料Ⅱ現況調査　まとめ
・【資料Ⅱ－①より】福井市文化会館の機能整理（案）
・主要ホールのポジショニングマップ
・【資料Ⅱ－②より】市民ニーズのまとめ
・【資料Ⅱ－③より】エンターテインメント事業の動向まとめ
　～興行利用への対応に関する論点～
・【資料Ⅱ－④より】MICE/コンベンションの可能性まとめ
　～MICE/コンベンションに関する論点～
③ 施設の目指す方向性（案）
・施設の目指す方向性（案）
　① 次世代への文化芸術の鑑賞・参加の場
　② 地域住民や文化活動団体の交流の場
　③ 地域芸能などの地域資源の継承と活用
　④ まちづくりと地域活性化
　⑤ 福井市民へ文化芸術情報を届ける発信拠点
・基本的な方針
　幅広い世代が利用しやすい施設、見やすい・使いやすい快適なホール
　文化活動団体の創造活動を支援する諸室、来館しやすい施設
・福井市文化会館　理念（案）
　－キーワード
　－理念（案）
　　・「創造」「発信」「育成」「交流」
　　・地域の人々が集い、交流する拠点･文化芸術に感動し、創造性を生み出す拠点としての文化会館
　　・人々の創造性や感性が交流し、清新な文化が集う文化振興の拠点

Ｅ委員　　施設の目指す方向性②で、「地域住民や文化活動団体の交流の場」と

書いてあるが、市民の活動の場が注目されたほうがいい。練習の場、活動する場というのが一つある。
　先ほど、1500～1600 席の施設が足りないという話があったが、現在演劇や住民コンサートをやっている人たちの集客は 70 人から 100 人レベル。市でよく使われている北ノ庄クラシックスという所で大体 70 人収容で、簡単な楽器の貸出、照明も簡単なものはある。他に片町のフラットの 2 階とか、アオッサのリハーサル室も 100 人前後でそんなに高額でなく、活動の場として結構使われている。施設を新しくする時、大きいものも必要だが活動拠点となる、例えば 70 人から 100 人程度の部屋を設けてはどうか。その他に個別に練習できる部屋があると使いやすい。
　福井市文化会館では、ダンスや芸術など、他の所にない活動がされているというイメージがある。県立音楽堂もリハーサル室はほぼ毎日使われており、その結果、小ホールなり大ホールでコンサート等を定期的に開催するという流れができている。そういった活動を目指してもいいのではと思う。

Ａ委員　　文化会館には地下があり、若いときにはそこで議論や演劇のほか、いろんな交流をやっていた。今は倉庫か何かになっていて、交流の場が消えてしまった。今でも交流の場とかいろいろな生きる空間に、戻せるのではないかという期待感はある。

委員長　　Ｅ委員が言っているのは交流の場というよりも、その活動の場について。その場合は、大規模な施設よりもコンパクトなもので、リハーサル等をしたりワークショップを開いたりミニコンサートを開いたり、そういう空間も、大ホール、中ホールと並んで必要ではないかということ。

Ｅ委員　　①で「鑑賞・参加」となっているので、②では「活動・交流」というようなのも追加してもいいかと。活動・交流の場というのが、表現としてはいいのでは。

Ｆ委員　　最後の、福井市民へ芸術を届ける発信拠点というところで、福井市の芸術を世界に発信するという視点は要らないか。

Ｂ委員　　地域に残されたいろいろな文化の継承、伝統、こういうものの発信も必要。⑤に発信もしくは地域文化の活性化なども入れたほうがいい。

Ｇ委員　　前回の委員会では、果たして文化会館が必要かどうかという議論を数多くして欲しいと事務局は言ったように思うが、今日の話ではもう既に文化会館建設に導いていっているような気がしている。
　耐震補強か、現在地で建て直すのか、または駅周辺の便利な所へ移設するのかといった議論があるが、はじめに文化会館が、福井市には必要であり、どうしても建てたいという話が必要。それを決めてから、どれぐらいの規模にするかというような課題に持っていくのが筋ではないか。

事務局　　文化会館の現状を見ると、様々な問題はあるものの、市民から必要とされてないとは全く考えていない。文化会館はかなり老朽化しており、再整備について考えていかなければいけないときに来ていると思う。その中で、これから求められる福井市民の文化を支える拠点として、どういった文化会館が求められるかを議論いただいているところだと思っ

ている。そういったものを実際に、具体的に実現していこうとすると、三つの再整備手法の中で、どういった手法が望ましいかがおのずと定まってくると考えている。実際の整備にどのぐらい費用が掛かって、また財源的な内訳はどうなっていくのかということについては、具体的な基本計画段階で調査の深度を深めていかなければならないと思っている。

Ｈ委員　　財源問題は非常に心配であるが、せっかくやるならいいものを作ったらどうか。ただ今の時代、あれもこれもやるという時代ではなく、民業を圧迫する必要はない。活動の拠点といったものは運営の仕方を考えないと、せっかく作っても上手く機能しないことになる。既存施設もまだやることがあるのではないか。

また、設置の場所によっても、付帯する機能を考えていく必要があるのではないかと思っている。やる以上は、目玉になる機能だけをきちっとやるという部分が必要。あれもこれもではなくて、本当に今必要なものを残して目玉一つ、というような形のほうがいいのではないか。

方向性については、事例紹介にあったようなことを書いてもぴんとこないところがあるので、簡単に一流の文化活動に触れられるような、誇れるような施設であれば問題ないのでは、そのほうが市民に分かりやすいのではないか。

委員長　　そうすると、質の高い芸術を享受する、ということを①に付け加える。

Ｉ委員　　市内にはいろいろな団体があり、それらの団体の皆さんの要望、条件等々、全て満たそうとすると予算が要るし、市内には音楽堂、ハピリンの中にも能舞台ができ、フェニックス・プラザ、木ごころ文化ホールなどの小さい施設もある。そういう施設も活用していかなければならない。全てのことを満足にできる施設が一番だが、それはなかなか難しいため、ある程度絞って議論していければと思っている。

事務局　　確認だが、先ほどＢ委員から出た地域文化の発信は、③に入れたいと思う。また、ここには挙げていないが、社会的包摂の視点の考え方を盛り込むのはどうか。

委員長　　社会的包摂の視点とは要するに、いろいろな社会的な問題、解決しにくい問題を解決するにあたって、文化の拠点が何らかの役割を担えるということが言われ出してきている。様々な人が、文化の拠点に入って作品を一緒に協力してつくっていくことが問題解決に効果があるということが言われている。

そういった社会の課題と向き合っていくような機能というのを、地域劇場の役割として担うことを位置付けられないかという提案である。案としては、⑥としてひとつ付け加えたい。

Ｄ委員　　③地域芸能というと限定的なイメージなので、伝統芸能とか郷土芸能とかといった言葉のほうがいいのではないか。郷土に根付いた芸能という、大きなくくりがいいのではと思う。

Ｃ委員　　どこに文化会館を作るかによって、方向性も変わってくる気もする。交流の場といっても作る場所によって、集まる人の層も変わってくる。郊外に作ってしまうと学生ではなかなか行けない。色々なことが立地によって変わってくるように思う。

委員長　　立地の問題は非常に大事な視点。④のまちづくりと地域活性化という、交流の拠点になっていく意味であるというのであれば、アクセスしやすいところに造るべき。

Ｆ委員　　どんなにいい施設をつくっても駅から歩いて行くようだと疲れてしまう。立地、建物とマネジメント、この三つが大事だと思っている。方向性はこれでいいと思うが、これからが大事。「福井の文化を高めたい」のか、「生活文化として福井市民の一人一人の文化の価値を上げたい」のか、その意気込みと全体の戦略によって、概ねこの施設にどのぐらいお金を掛けるかが決まってくる。

例えば21世紀美術館では、無料のホワイエ空間をメインに作って、超一流の美術家も飾れるような場所として有料の所も作った。そして緑に囲まれており、町からも近く、用もないのにそこで１日つぶしたりする人もいる。まさに立地と空間。あとはマネジメントで、美術館の中にはキュレーターがおり、そのセンスが問われる。そういった点がまず大事である。

Ｈ委員　　芸能活動とか文化活動に関しては、全ての人に対象になると私は思っている。

委員長　　芸術鑑賞を享受する能力を高めるという意味では、ある程度の質の高いものが必要。しかし、それだけで稼働率を上げるというのは、地方では厳しい。市民の理解を得ようと思ったら、市民が参画していけるような、つまり市民がいろんな作品を一緒になって参加できるような機能を持たさないと稼働率は上がらない。立派な芸術監督が来ても、キュレーションができる人が来ても、なかなか厳しいと思う。

■施設の目指す方向性について、委員意見をまとめると、

① 次世代というのを、全ての世代へ。それから、質の高い本物の芸術環境、あるいは芸術を享受できる環境を整えているようなニュアンスも盛り込む必要があるのではないか。それから、次世代の人材を育成するということも必要。

② 地域住民や文化活動団体の「交流の場」というのを、「活動・交流の場」という、アクティビティーという言葉も入れるべきではないか

③ 地域芸能を郷土芸能に変えてはどうか。郷土芸能なので地域資源の継承等活用。それから、郷土芸能を伝えることで歴史や文化を理解し、愛着と未来への警鐘を鳴らす。

④ まちづくりと地域活性化。特に立地が重要で、そういったフレーズも盛り込んではどうか。にぎわう施設を目指し地域活性化につなげるということ。

⑤ 福井市民へ文化芸術情報を届ける「発信拠点」に、「グローバルに発信できる拠点」という、グローバルという言葉も補完するべきという意見がある。

⑥ 社会的包摂機能という文言を、方向性として話しておくべきではないか。この内容については、もう少し事務局と議論しながら、次回提示へ。

全体を通じて発言内容をもう少し整理すると、
・立地、建物、文化マネジメントが大切であり、戦略として考えていくべき
・全ての世代が文化芸術の鑑賞、参加参画できること
・気軽に集えるような、ホワイエを含めた空間を設けていくということ
・質の高い芸術を鑑賞する機会を設けることによって、福井の文化を全体としてアップさせていく方向性が必要
・地域芸能を含めた郷土芸能の浸透ということも視点として、次の世代に伝えていくという、重要な役割をちゃんと担うべきではないか
・立地、公共交通機関との関係が重要
・グローバルな発信拠点
・社会的包摂の役割を担う

といったことが挙げられた。何よりも大事なことは、文化会館が本当に必要な芸術文化施設なのかどうか、必要性を十分と吟味しながら、これから具体的に検討していかないといけないということである。

■理念について。
・創造、発信、育成、交流
・地域の人々が集い交流する拠点を文化芸術に感動し、創造性を生み出す拠点
・人々の創造性や感性が交流し、清新な文化が集う文化振興の拠点
単語を並列して並べるほうがいいのか、文章として表記した方がいいのか協議したい。

Ｅ委員　この四つで全て網羅されていると思う。文章にしなくてよいと思う。

Ｃ委員　文章よりは単語一つ一つのほうがいい。集うというような言葉がこの中に入ってもいいかと思う。

Ａ委員　交流の中に、集うも入るのではないか。この四つでいいかと思う。

Ｉ委員　減らす必要はない。キーワードの中から一つ二つ増やしてもいい。

Ｇ委員　育成と創造でいい。

Ｄ委員　育成というのは創造にも発信にも交流にもあると思うので、創造・発信・交流の三つでもいいのでは。どの言葉もいろんなところに網羅されているので、抱き合わせをしたりして、キーワードとして残してもいいかと思う。

Ｈ委員　四つでいい気がしているが、最初の説明のときは文章がいいかなという印象だった。交流とか発信についてはどちらかというと運営、ソフトの問題。そこまで理念として入れるなら、やはり運営まで含めて提言すべきかと感じた。

Ｆ委員　単語としてはこの四つぐらいかと思う。あえて文章にするならば、創造、発信、育成、交流ができる、居心地の良い場所をつくる。施設ではなく場所のほうがいい。

Ｂ委員　　市民の皆さんに理解できるような形で言うと、この四つでいいかなと思っている。

委員長　　さまざまな意見が出ており、もう少し事務局と精査し、いい表現があれば皆さんの意見を反映した形にさせていただきたい。

Ｊ委員　　それでいいのではないか。

■次第４　事務連絡

事務局　　第３回目の日程について、年明け１月２０日頃を予定。

■次第５　閉会

※コンベンション
　会議、大会（集会）
※ＭＩＣＥ
　企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う会議・大会（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）などを包括した、新たな集客施策をいう。

以上